

〈会員のひろば〉

「協同」という形を生き方の実現態を求めて

中村 輝 (千葉県/生活クラブ・千葉)

いま、「私たちの業界」では、これからは、公企業の時代でも、私企業の時代でもなく、「協同組合の時代」であると自負する人が多くなっていると思う。たしかに、私の関わる生活クラブではレイドロー報告が広く認識される以前から、世界の、日本の協同組合運動の現状と未来について、かなり真剣な議論がなされ、「協同」の内実に向けた、事業化(生命の糧のみではない)と運動化を模索してきた事実がある。

「良い物」をより安く、共同で手にする形態から良い物とは何か、手にするとは何か、共同するとは何か等々、事物の生成と人間の関わりについてその根拠を探ることを追求しつづける行為の手法を習慣としてきたと思う。

そして「自分で考え、自分で行う」人々の集りと繋がりが、「協同」して運動し、事業を行う形態を現実化し、「生活クラブ」という社会的、経済的、政治的表現をするグループを生み出しているのであると考え。そこには、いわゆる生協があり、沢山のワーカーズ・コレクティブがあり、「代理人」という政治運動のネットワークがある。

要約すれば、現代社会における「もうひとつの異議申立運動ネットワーク」を作り出していると言える。数の上では、全国で約25万人の女性の集団であるが、この15年位の間、旧態の生活協同組合イメージを克服した「働き」＝「協同」を作り出してきたと思う。

企業社会に楔びを打ちこみ、自らの生活する地域で、協同事業を興す能動性は、これからの人々に大きな力を与えるものである。しかも、現状では比重の高い、リサイクルショップや喫茶・食事提供業・ハンディキャッパー援助等の事業と運動に止まらず、生産から流通・消費・廃棄・リクリエイトまでの全ての人間生活に関する事項に協同で関わり、事業化し、ネットワークできれば新

しい社会運動として、21世紀における「ひとつの中心」として、生活する人々の「拠り所」となると考える。

私の住む「千葉」では、生活クラブの行動範囲の中で、約30のワーカーズ・コレクティブ事業があり、10の代理人ネットワークがある。

これらは、まぎれもなく、「協同」の生き方を現実化した形態であり、「もうひとつの現状変革の代案」を示そうとしているものである。

これまで、自分の生き方を他律的にしてきたならい性から自律的に変えていくための手段と証しを地域における「協同組合的な人の繋がり」(事業化)としたことは、あちこちに新しい経済的社会的状況を生みだしている。そして、老若を問わず「新しいひとびと」を生み出し、自分たちの生活する地域を協同の力で変え、少しずつ住みやすいものにしていく。これからのありようは、サービスの小規模な形態から、連合して力をつけること。農業(農協とは異なる形態のもの)や健康事業などにも「協同」で担う手段を生み出していくことだろう。

西欧(イタリア・スペイン・イギリスなど)、カナダのように法制度のあるところとちがい、法制的支援のない日本での「協同」の実現形態は、大規模化するのに難しい時代と思うが、全国の各地で、「新しいひとびと」が、既存の経済システムや労働者市場に依らない事業を興し、社会的にも政治的にも、さらに文化的にも「異議申立」を続けていけば、これからの時代が、「協同組合の時代」として、認識され、法制化も現実のものとなっていこう。これからの社会が、企業における労働時間の短縮の実現により、生活地域での関わりを多くする方向となれば、女性だけでなく男性をも組み込んだ形態の「協同」の所産が、あちこちに生まれていこう。